

東村山稲門会ニュース 第24号

H11年3月6日 発行
発行責任者 大西 幸夫
編集局 塩見 之一
田口 政澄
小亀 輝雄
事務局 0423-94-6951

会からのお知らせ

◎. 平成11年4月定例役員会の案内

日時：4月3日(土) 14.00～14.30 発送準備(有志による)
14.30～16.30 役員会
場所：市民センター別館、第6会議室

なお、一般会員も時間の都合がつく方は気楽にご参加ください。

◎. 平成11年 お花見会開催の案内

去年に引き続き、好評だったお花見会を今年も下記の通り開催いたします。

日時：4月4日(日) 11.00～15.00 雨天中止(小雨決行)

ご家族同伴、歓迎です、

また、この時間帯内でしたら、いつでもご参加ください。

場所：多摩湖堰下(狭山公園内) Wの小旗を掲げてあります

連絡、問合せ

小亀輝雄 ☎ 042-394-6951
久保栄二 ☎ 042-396-4577
伊藤友己 ☎ 042-398-1352
町田和夫 ☎ 042-394-2438

◎ 会員消息

(1) 新入会員紹介

大野 恵子さん S46 秋津町3-32-32 ☎ 042-393-8295
柿沼 久子さん S39法 東大和市清水4-972-21
☎ 042-562-0130
清水 聡さん S50法 恩多町4-29-19 (現在、香港赴任中)
☎ 042-391-1810
田代 光一さん S38法 美住町1-4グリーンタウン 1-203
☎ 042-391-9658
寄本 勝美さん S39政経 多摩湖町3-15-56 多摩湖グリーンハイツA-101
☎ 042-392-4945

(2) 転勤・転居による休会、退会

金子 茂さん	転勤、単身赴任	休会
平賀 昌昭さん	転居	退会
柳田 雅之さん	転勤、単身赴任	休会

同好会だより

本紙の「同好会だより」紙面をA4横書き2段組から、近い将来の編集方法の変更に備えてA4横書きの基本形に戻します。書式変更に伴い「同好会だより」のワープロ投稿は行当たり40～45文字・頁当たり35～40行程度の書式でお願いします。23号 既報。(塩 見)

❀ 園芸の会 (第3回) 御案内

平成11年の初会合を下記の日程で催しますので、花を愛する方々奮ってご参加下さい。
ご家族連れ歓迎します。

記

テーマ : 『さぎ草を育てる』

講師 : 藤沢博恭氏 (昭29政経)

日時 : 3月28日(日) 14時から

場所 : 東村山市民センター 別館2階第4会議室

会費 : 教材費(実費1,500円程度)

ご参加の方は氏名、人数をご連絡下さい。

連絡先 : 三宅良太(昭36商) 電話 042-394-5298

❀ 絵画同好会

ニュース第23号でお知らせしました「春の野火止用水」沿いのスケッチ会を行います。

新青梅街道から用水沿いに北へ向い運動公園付近に至るまでの間は、春になりますと一斉に芽吹いて若葉がアーチ状に用水にかかり見事な眺めとなります。早春から初夏にかけては近くに梅・桜・あじさいなどの見どころがあり、冬の間休めていた鉛筆や絵筆の動きの勘を取戻すに最適です。初心の方は使いやすいF6かF8のスケッチブックを用意して鉛筆で水彩画のデッサンを試みては如何でしょうか。良い思い出になります。

3月のスケッチ会は、現地の日当りの関係で3月17日午後2時に野火止用水沿いの市内恩多町3丁目32番地の恩多野火止水車苑のあずま屋に集合し、付近に分散して約2時間の習作を行います。奮ってご参加下さい。

お問合わせは、長井部会長(☎393-0795)、塩見世話人(☎395-3718)まで。

❀ テニス同好会

2月20日に予定していた第9回テニス同好会例会は、前日の雨天の為残念ながら中止となりました。

3月は稲門会行事も既に数件予定されていますが、当同好会も節目の第10回ということで下記にて企画しましたので奮ってご参加下さい。

記

日時 : 3月27日(土) 午前10時(現地集合)

場所 : あさひ銀行所沢テニスコート

所沢市けやき台1-1-1 ☎042-922-4822

(なお、諸般の事情により、上記会場は11年4月1日以降使用出来なくなりました。

新しい場所を検討します。 幹事 当間 ☎391-6023

ゴルフ同好会

○ 第5回会長杯コンペのご案内

稲門会ニュース第23号で第一報をお知らせしましたが、下記にて日程が決まりました。
会員の皆様、奮ってご参加下さい。申込は下記幹事まで。

記

日 時 平成11年 4月18日(日) 午前 9時30分集合 (10:06 スタート 5組)
場 所 埼玉ゴルフクラブ 埼玉県入間郡毛呂山町葛貫 1,200 ☎ 0492-95-3311
費 用 参加費 5,000円
プレー費 約28,000円
参加申込先 [3月17日(水) 締切り]
幹 事 役 木 谷 肇 ☎ 391-3301
幹 事 役 当 間 昭 治 ☎ 391-6023

◎知っ得ゴルフ

13番ホール — 用語解説 —

「フェース、フェース」と課長に言われてバンカーの中のM君、何を勘違いしたのか自分の顔をねじ曲げて肩にあごを埋める仕草。更に「もっと開け、開くんだよ。」に、今度は踏ん張っていた両足を更に開いて股裂き状態に・・・。「クラブフェースを開いて打て」の見事な解釈に居合わせた筆者のフェースがクローズ。ほんとにあつた話です。

ゴルフの規則集も「用語の定義」が48項目に亘り「規則」の前に載っています。用語の意味を知らなければルールも理解出来ませんよあなた。

「ラフが深いからチンをグッと引いて、アップライトに力強くスウィングしてお客さん。」

(井 垣)

麻雀同好会

○ 3月の麻雀大会のお知らせ(既報分)

備忘のためお知らせの要旨を再掲載します。

日 時 : 3月14日(日) 12時30分(昼食はすませて来て下さい)
場 所 : マージャンM 本町 4-12 アメニティパレスB1 ☎ : 397-5228
会 費 : 6千円(競技代, 賞品代, 懇親会費用すべて含む)
申込締切: 3月8日(月)
申込先 : 小 野 (391-9523), 田 口 (395-4077) まで。

山とハイキングの会(仮称)の発足

この度「山とハイキングの会」(仮称)を発足させたいと思います。奥武蔵, 奥多摩などの低山を中心に歩いて歩き、会員の希望があればやや高い「登山」にも挑戦したいと思います。

ご家族や子供さんも参加できるよう考えています。

第1回は 4月24日(土)に行います。詳細は4月のニュースでお知らせ致します。

(今後は毎月のニュースで計画をお知らせ致します。) 皆様のご参加をお待ち致しますとともに、世話人をお引受け下さる方がおられましたら幹事までご連絡下さい。

幹 事 土 橋 042-393-5708 久 保 042-396-4577
小 亀 042-394-6951

坂本 英夫さん(昭38 商)にお願いして春の旅行会のさまざまな逸話をまとめて頂きました。編集子は昨年暮に人並みに風邪をひき、その後遺症で飲食には支障が無いのですが食後に急に眠くなる癖がついて別館の二階で午後七時以降は前後不覚となり取材不能でした。

坂本さんのご協力に感謝します。(塩 見)

旅行サークル(第一回)旅行記

旅行サークル会が発足し、第一回目の旅行会が2月13日(土)ー14日(日)の一泊二日で行われました。小亀幹事のお手配により宿泊先は坪内逍遙先生の別荘跡である熱海・双柿舎でした。

当日は、宴会に先立ち希望者による熱海梅園での寒梅会が催されました。梅を見ながら園内を散策しましたが、残念ながら、花は3ー5分咲きで1ー2週間早かったようです。熱海とはいえ夕方でしたので結構冷え込み甘酒などが有り難く感ぜられました。

双柿舎に到着すると、既に温泉につかった人、まだつかっている人、廊下でタバコをくゆらせている人、海を眺めている人などなど皆くつろいだ様子でした。

この双柿舎は、来宮駅から徒歩約10分の山の中腹にあり明治・大正時代の面影を残した典型的な別荘で庭をはさんで2棟建っており、また庭の奥には逍遙先生の書斎であった逍遙書庫がありました。手入れの行き届いた庭や家の中から熱海湾が間近に見え眺望の大変素晴らしい所でした。皆さんも機会を作って是非訪ねることお勧めします。

さて、5時半になりいよいよ宴会です。先ず、幹事の挨拶とビールによる乾杯で始まりました。板前さんが丹精込めて造ってくれた料理を肴にアルコールが徐々にまわり始め、あちこちで話が弾み出しました。まだ参加人員をお知らせしていませんでしたが、男性13名、女性5名の計18名です。この18名で双柿舎の新記録を塗り替える快挙というのか、なんというのか凄いことを成し遂げてしまったのです。後述します。

宴が更に盛り上がり、徳利、ビール瓶、ウイスキー水割り、焼酎お湯割りなどが皆の前を行ったり、来たりしているうちにあっという間に3時間が経ち係の女性から(布団を敷く時間なので)「そろそろカラオケに出掛けよう? 安いところ紹介するから」などと何回か云われ仕方なく二次会に移ることになりました。エンディングは当然のことながら肩を組んでの「都の西北」の大合唱となりました。時間短縮?のためか幹事が歌詞の2番を省略したためにメンバーの1人から後でクレームをつけられていました。いつもは一言ある他のメンバーから何も出なかったのは、多分飲み過ぎて校歌を歌ったことすら覚えていなかったのでは、. . . と思われます。これからが大変になりました。

筆者を含め7人が、宿舎差し回しのクルマに乗り込みカラオケ店目指している頃、女性群(といっても全員参加メンバーのご夫人方ですが)は、別棟へ移り午前0時を超えてのトークに励まれたとか。一方残りのメンバーは、卓を囲んでのジャラジャラを始めました。

カラオケ組は、なぜか自然と古い歌ばかりを選んで一時間思う存分歌って引き上げました。メンバーの一人は宿舎のサンダルを履かずにクルマに乗って帰って来てしまいました。あのサンダルがその後どうなったか少々気掛かりです。

帰ってからまだマーチャンしているグループやもう寝てしまった人の横で3次会が始まりました。ここで応援歌、人生劇場などを大声で歌い続け、暫くしてマーチャングループも加わり延々と酒盛りが続きました。筆者は11時半になり布団に入り寝ましたが、長い間話し声が聞こえていました。

翌朝いろいろな話を聞きました。結局長い話は午前0時を過ぎ、寝床を探して寒い夜中に庭を往復した人、人の布団に潜り込んだ人、枕元で大声で歌っていたにも拘わらず全く知らずに寝ていた人、温泉に都合4回も入った人、寝ている人の枕元のズボンにさわり怒られた人などなど。全くの修学旅行状態でした。

前述した凄いこととは、前の晩空にしたビール瓶が57本だったそうで、板前さんによると今迄では男性21人で60数本が最高でしたが、我がグループは女性5人を考えたら新記録でしょうとのこと、また飲んだ量にも拘わらず器物の破損もなく結構でしたとのことのお褒め?の言葉も頂戴しました。気のせいでしょうか一同の顔が誇りに輝いたように見えました。

朝食後、当時としては珍しい建築様式の逍遙書庫を開けて頂き、貴重な文献、写真等を拝見した後、近くの高蔵寺にある墓所に全員でお参りました。そのあと宿舎に戻り荷物をまとめから熱海駅まで歩きそこで解散となりました。

・寺の住職から頂いた先生の辞世の句です。

「ひとの身のおもひは とほくおいらくの くるひはちかし せむすべもなし」せうえう

ということで旅行記はこれで終わりとします。皆さんお疲れさまでした。

大変楽しい会でしたので、次回も是非参加したいと考えております。参加されなかった方も凄いい会だと思わずに参加下さい。会員相互の親睦が確実に図れるものと思っています。

尚、筆者の見聞していない面白い話もありそうなので他の参加者に直接お聞き下さい。

(参加者) 江藤昌明、久保英二、塩見之一、田口政澄、土橋雄次、松永常尚、三宅良太、筆者

木谷 肇、同夫人、小亀輝雄、同夫人、当間昭治、同夫人、山下邦泰、同夫人

特別参加：羽田、同夫人

平成11年2月

坂本英夫(文責)

編集後記

◎ 今号は特に意図したわけではありませんが紙面に余裕が生まれましたので、会員の皆さんのお知恵を拝借し稲門会ニュースの一層の内容充実を図るため具体的なご意見を求めることにしました。

創刊時に企画しました 会執行部からの連絡事項、同好会関係記事、文芸欄の三本柱が寄稿の増加によって形が出来てきました。頁数は4～6頁が常態となって体裁も整いました。

しかし、これですべて良いと言うわけではなく、パソコン、ワープロ世代年齢が60才に達した現状から、より効率的な編集手法を取入れ同好会関係記事以外については寄稿文のニュアンスを損なう虞があるワープロ浄書を出来るだけ避けて、執筆者の狙いを極力生かしたいと思っております。

ご意見を求めるテーマとしては、

○ かねてより意見が出ておりましたワープロ依存からパソコンネットワークへの切替えは、キー局が決まれば試行が可能で、個人或はグループでのキー局引受けの申出をお待ちします。

○ 記事のマンネリ化を防ぐための編集陣の交替は、第30号発行がひとつの節目となるか？と考えております。編集作業にはパソコン、ワープロなどの機械いじりが必須ですが、最近のワープロソフトは使いやすく2～3ヶ月で慣れますのでお手持ちのパソコン或はワープロで試してみてください。なかには読みづらいマニュアルがあり途中挫折の原因となりますが、仕事で内外各社のマニュアルをチェックした経験がありますので不明部分の解説が可能です。お尋ね下さい。

◎ 小亀さんのお骨折りで熱海双柿舎の予約がとれ坂本さんのレポート通りの盛大な初旅行を体験しました。インフルエンザ予防接種の2回目を済ませた足で出掛けため風呂に入れなかったのが残念でしたが、注射のせいかお酒の回りが良く堪能しました。帰途小田原の駅前通りの寿司屋さんのトロで旅の仕上げをして早目に帰宅、24号発行の準備に入りました。(塩見)

学生生活の思い出

市川 久美子

先日、久々に母校に行く機会があった。
早稲田の校庭は昔のままで、銅像の前には
立看板、ビラが風に舞い、スピーカーからは
演説が流れ、学生はのんびりとおしゃべりに
夢中で、まるで三十数年前にタイムスリップ
したような錯覚と懐かしさを感じた。母校が
懐かしいというより、何事にもひたむきだっ
たあの頃の自分が懐かしいのだ。

春浅い三月半ばに郷里の福岡から上京し、
中学高校と、女子校で育った私にとって、当
時は周りは男子ばかりの早稲田も、大都会の
喧噪も、すべてが胸踊る想いで、一年間は、
「あっ」という間に過ぎていった。

そして二年生の始めに世界連邦研究会とい
うサークルに出会った。「国連を強化して連
邦国家を」という平和運動で、湯川秀樹氏等、
科学者を中心に各大学と連帯してサークル活
動を展開していた。私は結局、卒業までこの
活動に没頭していった。

ある年の早稲田祭で模擬国連総会をやる事
になり、東京の国連事務局に旗を借りに行っ
た時、後に国連事務次長として貢献された、
明石氏にお会いした。若き氏は、我々学生に
穏やかな口調ながら世界の恒久平和について
熱っぽく語られ、深い感銘をうけた。
今振りかえると気恥かしい話だが、ケネデ
イの暗殺、ベトナム戦争と世界が激動する中
で、私達は核の脅威を実感し、平和運動への
使命感に燃えていた。

あれから何十年の時が流れた。家庭を築き
子供達も成長し、幾年月の後に校庭に立つと
そこには変らぬ空気が流れ、自分の足跡がの
こっている気がする。風が吹き抜けるように
一瞬のうちに過ぎた青春だが、仲間と追い求
めた夢や理想は、輝きを失ってもその中で培
った友情は変らない。

たまに仲間と会うと、昔話に笑い、泣き、
そして「あの頃はお互いに若かったネ」とい
うのがきまり文句である。（昭四二教育）